



2026年6月12日

各位

会社名 Hm c o mm株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 三本 幸司  
(コード:265A、東証グロース市場)  
問合せ先 取締役執行役員 CFO 土屋 学  
(TEL. 03-6550-9830)

### (開示事項の経過) Hm c o mm、守山市実証における漏水検知モデルの成果 および次世代漏水監視への取り組みについて

当社は、2025年10月24日付「衛星データ×FAST-Dによる漏水検知システムにおける実証フェーズの方向性決定について」および2026年4月3日付「(開示事項の経過) 守山市における AI 漏水検知実証実験の結果および社会実装フェーズへの移行に関するお知らせ」にて公表いたしました滋賀県守山市との実証について、その後の実証状況から、漏水検知モデルの有効性を確認するとともに、次世代漏水監視 AI の実現に向けた取り組みを進める方針といたしましたのでお知らせいたします。

#### 1. 実証成果

本取り組みでは、水道管情報、地理空間データ、衛星データおよび修繕履歴等を活用した広域リスク分析および、当社の音響解析 AI 技術を活用した漏水検知モデルの検証を実施しました。

守山市との実証では、以下の成果が確認されました。

- AI による広域漏水リスク分析の有効性を確認
- 漏水音解析 AI による漏水・非漏水の高精度な分類を確認
- 高リスク地点を対象とした現地調査により、複数箇所での漏水を発見・確認
- 広域分析から現地調査までの漏水検知プロセスの有効性を確認

#### 2. 次世代漏水監視への取り組み

今回の実証を通じて、広域リスク分析と音響 AI を組み合わせた漏水検知モデルの有効性が確認されました。

これを踏まえ、当社は漏水を発見するための「漏水検知 AI」から、漏水の兆候を継続的に監視する「漏水監視 AI」への発展に向けた取り組みを進めてまいります。

今後は、広域リスク分析 AI、音響判定 AI および監視 IoT を組み合わせることで、高リスク箇所を優先的に監視し、異常の早期発見や予防保全を支援する次世代型インフラ管理モデルの実現を目指します。

また、従来の定期点検型保全 (TBM) から、設備状態に応じて優先順位を決定する状態基準型保全 (CBM) への転換に向けた検討を進めてまいります。

#### 3. 今後の見通し

本件は、現時点では当社の業績に与える影響は軽微であると考えております。今後、業績に重要な影響を与えることが判明した場合は、速やかにお知らせいたします。

以上